令和5年度ギャンブル等依存症地域支援体制推進部会の概要

資料2－4

【第1回】 R５.７.26 @ドーンセンター 大会議室３
（１）ギャンブル等依存症の啓発について
（２）その他

【第２回】 R５.11.22 @ドーンセンター 大会議室３
（１）今年度の取組みについて
（２）その他

①ギャンブル等依存症の啓発について（各機関・団体の取組みについて）

＊事務局から今年度のギャンブル等依存症問題啓発月間の取組みについて報告。委員より、各機関・団体における取組み内容と今後の課題について発言いただいた。（発言意見を一部要約）

・各種SNSでの啓発広告について、**18歳から24歳の若者を対象にターゲティング**を行い、高い効果実績があった。
・**健康マイレージポイントを活用**し、広く啓発を行った。
・**更生施設を出るタイミング**に、法律専門家と依存症を経験されたご本人で訪問をしている。
・ギャンブル等の問題から発展して様々な問題が生じるため、**生活困窮相談担当者や自治体相談者、弁護士向けに**ギャンブル等依存症についての研修を予定している。
・職場におけるギャンブル等の問題から、**金銭の貸し借りや横領などの犯罪につながることもあり**、啓発ポスターを作成した。
・**相談へのハードルを下げる**ため、カード型の啓発資材を作成し、ショッピングモールなどに置いて気軽に手に取ってもらえるよう取り組んでいる。
・**大学等での講義で薬物依存症について話をする機会に、ギャンブル等依存症についても**話をするようにしている。
・高校生の課題研究で「スマホ依存症」について身体への影響や予防について学びたいと相談があり、ギャンブル等依存症ではないが、**主体的に取り組んでもらうことが重要**であり、協力している。
・若者の受診が増えている中、より**早期に医療につながってもらうため、**どういった情報が本人受診の動機付けになったのかを聞いていきたい。
・若者を中心に**インターネットギャンブルの危険性やオンラインカジノの違法性について認識が低い**ことが危惧され、引き続き啓発が必要。

②今年度の取組みについて ＊事務局から、事業について説明し、ツール等を紹介。その後委員より改善点等について意見を伺った。（発言意見を一部要約）

（予防啓発ツールについて） ＊第1回、第2回ともに、主に高校生を対象に作成中である、依存症についての理解・予防・ストレスとの付き合い方について学ぶためのツールについて紹介し、意見を伺った。

・高校生を主な対象として作成しているとのことで、**部活の引退後など熱中していたものがなくなったときや、何か大きな挫折を経験したとき**に、ゲームやギャンブルにはまってしまう人もいるため、そういった背景を含めてツールを作成するといいのではないか。
・高校生だけではなく、中学生でも授業に取り入れてもらい、**早くから予防啓発をしていく**方がいい。
・大学生向けに、新入生オリエンテーションや大学祭などの機会を活用し、**急性アルコール中毒等のアルコール関連問題や、大麻等の薬物問題とも合わせて予防啓発**することが必要。
・今年度、高校でこの予防啓発を使った**出前講座で体験談を話したところ、生徒たちが静かに耳を傾けてくれた**。
・予防啓発時には二次元コードを使うなどし、**相談先も合わせて伝えておく**といいのではないか。
・高校生時に聞いた話やもらったリーフレットが、**後に問題が起こった時に、思い出されて相談につながった**事例もある。少しずつ取組みを進めることが有効。

（ギャンブル等依存症簡易介入マニュアルについて） ＊ギャンブル等依存症の早期発見・早期介入・情報提供を実施するために作成中の本マニュアルについて紹介し、意見を伺った。

・医療機関向けマニュアルとなっているが、**内科の医師がリーフレットを渡すことはできても、内容を説明するところまではなかなかできない**。どういう方法で広めていくかは検討が必要。
・まずは、**精神科の医師に知ってもらう**ことが必要であるが、ギャンブル等の問題で困っている本人が精神科を受診するハードルは高く、**広く医療機関にマニュアルについて周知する**ことも必要。
・医療機関向けマニュアルとなっているが、医療機関に限らず**広く活用できるのではないか**。介護関係の支援機関から、支援中の家庭の家族のギャンブル等のことで相談を受けることもあり、介護分野の支援者にも使ってもらってもいいのではないか。
・ギャンブル等の問題の前にお金のことで困って相談につながることもあるため、**「借金とギャンブル等のことで」**といった文言をいれるよいのではないか。
・ネット上でスクリーニングテストを受けられると、**借金問題等で医療機関以外の支援機関につながった人にもスクリーニングテストを提案しやすい。**
・スクリーニングテストで点数が低くても注意が必要な場合もあり、**より早く相談につながることが大切**だということがわかるようにするとよい。

（連携支援モデル構築事業について） ＊依存症の本人及び家族への支援について適切な連携支援モデルの構築をめざす本事業について、事業の進捗状況や今後の取組みについて説明し、意見を伺った。

・本事業による訪問を複数回受け、事例を伝える中で、連携ができてきており、有意義な取り組みであると感じている。**今後は個別事例についてより具体的な**話ができればよい。
・事例を聞き取るだけでなく、行政からもどういった連携を行っているのか聞き、**情報のやりとりをおこなうことでよりつながりをもっていきたい**。
・見学会では、受け入れる側として、見学者に施設の説明等をすることで得るものが多くある。
・今後は訪問先に医療機関も入れてもらいたい。**医療機関側も他団体にどういう事例をつなげばいいのか知らないこともあり、どういった事例をつなぐといいのかをお互いが知れたらいい**のではないか。
・「連携の場の構築」と聞くと会議をイメージしてしまいがちであるが、こうした**訪問を通して顔の見える関係づくりから連携を広げていき、好事例を積み重ねて、皆で共有**できることが望ましい。